

「お正月の神さま」

暮れは何かと気忙しくなる人も多いのではないのでしょうか。年が切り替わることは、季節感を失いがちな現代人にとっても大きな節目になっています。

なぜ、新年はめでたいのでしょうか。それは年神(としがみ)が家々を訪れ、私たちに新たな活力・生命力を授けてくれるからです。門松は年神を招くしるしです。玄関のしめ飾りやしめ縄は、不浄なモノの侵入を避け、年神様をまつる空間、つまり家の中を清浄に保つために飾ります。正月期間中、家は祭場になるのです。

お正月に旧家を訪れると、ザシキに祀った大神宮



サンダワラボッチに挿した
年神札(入野)

祠の横に年神の御札を見ることができます。「大年神 御年神 若年神」などと刷った御札です。この御札をサンダワラボッチに立てたり、輪切りの里芋や大根に挿したり、祠に入れりして年神棚にまつります。年神をはじめ、大神宮様やえびす様、荒神(こうじん)様、井戸、物置の戸など、神さまが宿りそうなすべての場所にしめ飾りをします。

昔は、お正月に皆がいっせいに一つ年を取りました。その年を授けてくれるのが年神です。子どもが楽しみにしているお年玉は、元々は年の霊・魂(たま)の意味であり、その象徴のひとつが餅であったと考えられています。

寄贈品コーナーでは、各種しめ飾りや年神の札、正月行事の写真などを展示します。

2009年12月2日(水) ~ '10/1月7日(木)



新年の神棚 左方が年神棚(岡崎)